

# 抗がん剤プロトコール 届け票

申請日	2023年 2月 1日	
申請者	所属科:血液内科	医師名: 井上 敦司

## 抗がん剤プロトコール内容

略名	IsaPd 療法
適応臓器名	再発または難治性の多発性骨髄腫
薬剤名	サークリサ 一般名 イサツキシマブ (遺伝子組換え) ポマリドミド 一般名 ポマリドミド デカドロン錠 or デキサート注 一般名 デキサメタゾン
注意点	薬剤の注意点を遵守すること。

## 用法・用量・投与スケジュール

4週間隔で投与 クール数によって サークリサ投与日注意

**Day1, 8, 15, 22 (初回) Day1, 15 (2クール以降)**

カロナール 200mg 3錠

サークリサ投与から 15~60分前に内服

生食 100mL + デキサメタゾン 6.6mg 3V + ホ° ラミン注 2mg + ファモチジン 20mg

30分で投与 (患者に合わせて適宜調整も可) 40mg まで (75歳以上は 20mg)

生食 250mL + サークリサ 10mg/kg インラインフィルターを使用すること

投与速度 (初回)

投与速度 (2回目以降) 問題がなければ

点滴開始から 60分後 175mg/hr

点滴開始から 60分後 175mg/hr

60分後~90分後 225mg/hr

60分後~90分後 275mg/hr

90分後~120分後 275mg/hr

90分後~120分後 375mg/hr

120分後~150分後 325mg/hr

120分後以降 400mg/hr

150分後~180分後 375mg/hr

180分後~210分後 400mg/hr

ポマリドミド及びデキサメタゾンとの併用 (IsaPd療法)

対象: 3rd line以降の患者<sup>※</sup>

■ 前投薬 本剤投与開始15~60分前に、デキサメタゾン、解熱鎮痛剤、抗ヒスタミン剤及びH<sub>2</sub>受容体拮抗剤を投与すること

デキサメタゾン	解熱鎮痛剤	抗ヒスタミン剤	H <sub>2</sub> 受容体拮抗剤
75歳未満 → 40mg 75歳以上 → 20mg 経口又は静脈内投与	【治療時の例*】 アセトアミノフェン 650~1,000mg 経口投与	【治療時の例*】 ジフェンヒドラミン 25~50mg 静脈内投与	シメチジン等 経口又は静脈内投与

\*社内資料: 国際共同第3相 (EFC14335/ICARIA-MM) 試験 [承認時評価資料]

**Day1-21**

ポマリドミド内服 4mg/日/body 21日間内服

7日間休薬

デキサメタゾン 40mg 週

(患者に合わせて適宜減量も可)

75歳以上は 20mg へ減量

### ■ 1サイクル目

	Day 1	第1週	8	第2週	15	第3週	22	第4週
サークリサ (10mg/kg)	■		■		■		■	
ポマリドミド (4mg)	■	■	■	■	■	■	■	■
デキサメタゾン (40mg*)	■		■		■		■	

国際共同第3相 (EFC14335/ICARIA-MM) 試験の治療スケジュール参照

ポマリドミドの用法及び用量: 28日間を1サイクルとし、1日1回4mgを21日間毎日経口投与した後、7日間休薬した。低用量デキサメタゾンの用法及び用量: 28日間を1サイクルとし、1日1回40mg (75歳以上の患者では20mg) を1、8、15及び22日に静脈内又は経口投与した。

### ■ 2サイクル目以降

	Day 1	第1週	8	第2週	15	第3週	22	第4週
サークリサ (10mg/kg)	■		■		■		■	
ポマリドミド (4mg)	■	■	■	■	■	■	■	■
デキサメタゾン (40mg*)	■		■		■		■	

\*75歳以上の患者は20mgに減量

Evidence	サークリサ・ポマリドミド添付文書 サークリサ適正使用ガイド
備考	

がん化学療法委員会承認日: 2023年 2月 20日